

## 第261回研究科委員会・第373回教員会議 議事要録

日 時：令和6年8月28日（水） 研究科委員会 13：30～13：50  
／教員会議 13：50～15：00

場 所：後援募金記念棟 会議室1-3

### 議 題

#### ◆研究科委員会◆

[審議事項]

##### 1. 入試委員会

###### (1) 令和6年度10月期及び令和7年度4月期入学大学院入試合否判定について

回収資料に基づき説明があった。共生システム理工学専攻の博士前期課程では令和6年度10月期の一般入試に1名が受験した。令和7年度4月期の推薦入試には1名、一般入試では41名、社会人特別入試では1名が受験した。いずれも合格要件を満たしている。環境放射能学専攻の博士前期課程では令和7年度4月期の一般入試に3名が受験し、全員が合格要件を満たしている。共生システム理工学専攻の博士後期課程では、令和7年度4月期の一般入試に3名が受験し、全員が合格要件を満たしている。環境放射能学専攻の博士後期課程では令和6年度10月期の一般入試に1名が受験し、合格要件を満たしている。以上の結果、今回受験したすべての受験生が合格要件を満たしているため、受験者全員を合格としたいとの提案があった。審議の結果、特に質問はなく、提案通り合否判定が承認された。

研究科長から、共生システム理工学専攻の前期課程は定員を満たしたが、Ⅱ期入試を予定通りに行うとのアナウンスがあった。

##### 2. 国際交流委員会

###### (1) 2024年度大学推薦による国費外国人留学生の受入れについて

資料1に基づき、パキスタンから1名とバングラデシュから1名の計2名の受け入れについての提案があった。准教授から研究科研究生としての在籍期間と大学院生としての在籍期間について質問があり、委員から前例と同じで問題ないとの返答があった。教授から、大学推薦による国費留学生の受け入れシステムについて質問があり、委員から受け入れシステムや大使館枠についての説明があった。それ以外に特に質問はなく、提案通り承認された。

[報告事項]

##### 1. 教務委員会

###### (1) 第118回全学教務協議会について

(報告事項)

・全学FD研究会の日程について

資料2に基づき説明があった。今年度は10月31日（木）に開催される。全員参加をお願いしたいとの依頼があった。

##### 2. 学生生活委員会

###### (1) 日本学生支援機構大学院奨学金返還免除者の決定について

資料はなく、口頭で説明があった。前期課程から5名を推薦し、1名が全額免除、4名が半額免除となった。

#### ◆教員会議◆

[審議事項]

##### 1. 教務委員会

###### (1) 令和6年度非常勤講師計画について

資料3に基づき説明があった。特に質問はなく、提案通り承認された。

## [報告事項]

### 1. 学類長

#### (1) 人事委員会

- ・海外派遣研究員の推薦スケジュールについて

資料4に基づき、派遣旅費や各学類への配分について説明があった。令和7年度は共生システム理工学類に外地研究が割り当てられている。推薦希望者は、まずは10月11日までに支援室に申し出てほしい。さらに学類長から、8月27日に開催された教育研究院会議の報告があった。2030年に全学の教員数を200名にするとの全学執行部の提案に基づき、「新理工学部」の教員数の推移表についてプロジェクター投影により説明があった。令和6年度は、翌年度採用予定人数が7名となっている。この7名には高度情報専門人材採用分の残り2名と水素エネルギー総合研究所採用分の2名が含まれており、これら4名は教育研究院会議ですでに認められ、現在公募中である。学類長から学長には、割り振られた年度計画の数を前倒しできるかとの質問をした。学長からは前倒しについては調整が必要なので要望を出してほしいとの返答があった。学類長から令和6年度の増員を要望したが、令和6年度は7名のままにするとの返答があった。学類の担当が変わる教員について学類長が質問したところ、学長から予定に変更はないとの確認を得ている。ただし、推移表には担当が変わる教員の数すべて反映されているわけではないとの説明が学長からあり、あいまいさが残っている。学類長からは、今後はこの推移表の数をベースにして、対応していきたいとの発言があった。9月13日に教員会議が予定されているので、このときに3名分の公募文書の審議を予定している。以上の報告に対して、特に質問等はなかった。9月2日の人事委員会で、3名の公募についてさらに検討する予定であるとの付言が学類長からあった。

### 2. 教務委員会

#### (1) 非正規生（研究生）の退学について

資料5に基づき説明があった。中国からの研究生1名が7月31日付で退学となった。当初9月30日までが研究期間であったが、帰国して就職するために7月末で退学となった。

#### (2) 第118回全学教務協議会について

##### (報告事項)

- ・令和5年度卒業時アンケートの調査結果について

資料6に基づき、アンケート調査結果の概要について説明があった。

- ・令和6年度新入生アンケートの調査結果について

資料7に基づき説明があった。学類全入学者の約半数が回答した。他学類に比べて、共生システム理工学類は第一希望の入学者が少ないという特徴がある。

### 3. 奨学寄附金等の受入について

8月分として、奨学寄附金5件、共同研究1件、受託研究2件、受託事業1件の受け入れが報告された。

◆教育研究評議会◆

○第420回（7月23日開催）報告

【議題】

- (1) 【報告】「福島大学グランドデザイン2040」の策定について  
資料1に基づき説明があった。第421回評議会で修正されたので、そちらで説明する。
- (2) 【報告】学内諸規則等の制定について  
資料2に基づき説明があった。特命理事を置くことに関する制定である。
- (3) 【報告】令和5年度卒業時DP評価、卒業時アンケートの集計結果について  
資料3に基づき説明があった。アンケート結果については教員会議〔報告事項〕2(2)での教務委員長からの報告と同じであり省略する。評価については、全学では学生よりも教員の入力率が低かった。理工学類教員の評価入力率は最終的に95.3%となり、他学類よりも大幅に高かった。
- (4) 【報告】令和6年度 新入生アンケートの集計結果について  
資料4に基づき説明があった。教員会議〔報告事項〕2(2)での教務委員長からの報告と同じである。
- (5) 【報告】令和5事業年度決算について  
資料5に基づき説明があった。約4億1千万円を目的積立金として文部科学省に申請する。詳しくは資料を見ていただきたい。
- (6) 【報告】令和7年度概算要求について  
資料6に基づき説明があった。理工学類からは水素研の継続拡充（今年度の教員拡充3名分）と教育設備の2件を出している。結果は今週末に出る見通しである。
- (7) 【報告】福島大学と国立研究開発法人海洋研究開発機構との  
クロスアポイントメント制度に関する協定書の締結について（新規）  
資料7に基づき説明があった。経産省事業のために、JAMSTECから1名をクロアポで採用する件である。
- (8) 【報告】令和5年度監事監査結果について  
資料8に基づき説明があった。幹事監査結果に特段の問題はなかった。個別事項についての監事からの意見も紹介された。
- (9) その他情報共有等  
資料はなく、とくに情報共有はなかった。

○第421回（8月27日開催）報告

【議題】

- (2) 【報告】就業規則の一部改正について  
資料2に基づき説明があった。事務系職員のグループを廃止し、過半数代表者が直接意見聴取を行う形へ変更することになった。それに伴う就業規則の一部改正である。それに伴い、安全衛生委員会のうち「安全衛生に関し経験を有する金谷川事業場に所属する職員のうちから学長が指名する者」の人数も5名から3名になる。
- (3) 【報告】教育推進機構 教員の採用人事について  
資料3に基づき説明があった。応募者2名のうち1名が辞退し、残り1名の面接を行い、採用が決まった。
- (4) 【報告】国立大学法人福島大学地域未来デザインセンターと葛尾村及び株式会社  
ORENDA WORLDの次世代人材育成に関する連携協力協定書の締結について  
資料4に基づき説明があった。詳しくは資料を参照していただきたい。
- (5) 【報告】「令和6年度研究・地域連携公開フォーラムー持続可能でレジリエントな社会の創造を目指してー」の開催について  
資料5に基づき説明があった。開催要項はほぼ最終版である。水素研やF-REIの講演も含まれている。開催日は11月16日で、場所は郡山のホテルハマツである。積極的なご参加をお願いしたい。
- (6) 【報告】地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）への申請  
（連携大学）について  
資料6に基づき説明があった。水素関係では、山梨大学が提案大学、福島大学が連携大学となっている。

もう一つは地域共創関係であり、山形大学が提案大学、福島大学が参画機関となっている。水素関係では、福島大学に予算配分がある。参画機関には予算配分がない。詳しくは資料をご覧ください。

(7) 【報告】ウクライナ科学アカデミー原子力研究所（ウクライナ）と  
環境放射能研究所との連携に関する覚書の締結について（更新）

資料7に基づき説明があった。初回協定が期限満了となったため、更新することになった。今後は5年ごとに自動更新される。

(8) 【審議】令和5年度運営計画の実施状況に係る自己点検・評価書について

資料8に基づき説明があった。実施状況評価（4段階）のうち、評価Ⅱと評価Ⅳの項目に関して具体的な説明があった。

(9) 【審議】「福島大学グランドデザイン2040」の策定について

資料9に基づき説明があった。7月の評議会資料の改訂版が提案された。学長から修正箇所の説明があった。ポンチ絵や学士課程改革の素案の説明もあった。「理工学部」の名称は仮であり、学科名称も未検討である。9月の経営協議会と役員会後、大学HPで公開される。

(10) 【報告】学士課程改革について

資料10に基づき説明があった。各学類から説明があり、「教育学部」と「行政経済学部」については資料に基づく説明があった。共生システム理工学類と食農学類は口頭説明だった。9月中旬から文科省との事務相談が始まる。

(11) その他情報共有等

資料はなく、学長からマスコミによる学士課程再編報道に関して、情報の取り扱いについて注意喚起があった。

#### ◆運営会議◆

開催なし

最後に学類長から、9月13日の教員会議への出席依頼のアナウンスがあった。